

刀 剣 界

「大刀剣市」事前説明会を開催

全国刀剣商業協同組合主催の大刀剣市が、今年も十一月十六日から三日間、港区新橋の東京美術倶楽部で開催されます。それに先立ち、七月十七日に出店者事前説明会を開催しました。

今年で三十一回目となる大刀剣市は、今では世界一の刀剣イベントと言われるまでに成長していきます。それは、歴代の諸先輩が、日本刀文化の発展と刀剣商の地位向上を目指し一丸となって活動してきた苦勞の賜物であります。

毎年、国内からはもとより、遠く海外からも楽しみにお越しただくわけですから、私たちがそれに応え、事故がないように、粗相がないように準備しなくてはなりません。

お知らせ

「大刀剣市2018」は11月16～18日開催

「大刀剣市」は本年も産経新聞社・フジサンケイビジネスアイ両社の後援を頂き、東京美術倶楽部を会場に開催します。回を重ねて第三十一回を迎えます。

全国から七十三店舗が出店、カタログ掲載商品をはじめ、刀剣・刀装具・甲冑ほか多数の優品を展示即売します。

特別展示として、三階重文室にて「明治150年 明治時代から平成時代の刀匠展」を同時開催「我が家のお宝鑑定会」や全日本刀匠会の協力による作品展示や銘切の美演なども行われます。

平成最後の大刀剣市へのご来場を、出店者一同心よりお待ちしております。

出店者一覧 (順不同)	
刀剣・古美術飯塚	飯塚 賢路
刀剣座長州屋	深海 信彦
銀座丸英	瀬下 昌彦
銀三貿易刀剣徳川	福岡 勇仁
霜剣堂・黒川	黒川 精吉
銀座百力ミュージアム	村上和比子
刀剣はたや	川島 三男
やしま	齋藤 雅稔
刀剣武蔵野	朝倉 忠史
刀日本刀柴田	大西 敏之
刀金丸刀剣店	柴田 和光
平成名刀会	鈴木 雅一
神田藤古堂	藤田 一男
神晴雅堂清水	清水 儀孝
静心堂声澤	芦澤 幸一
木村美術刀剣店	木村 光隆
株安東貿易	安東 孝恭
銀座誠友堂	生野 正
株城南堂古美術店	田中 勝憲
銀座盛光堂	齋藤 恒
長谷宝満堂	蛭田 道子
勝武堂	大平 岳子
刀剣大東美術	熊倉 勇
田名網美術刀剣	田名網 守
大西美術刀剣	大西 孝男

古美術草分堂	草分 一雄
札幌横山美術	横山 忠司
慶長堂	トリスバート
株日宝	田澤 二郎
旬聚堂	中永 潔
刀剣坂田	坂田 哲之
もちだ美術	持田 正宏
刀剣美術中川	中川 真樹
尚佳洞	深津 尚樹
一文字商会	古屋 祐介
江州屋刀剣店	小暮 昇一
株永興	松本 義行
福隆美術工芸	網取 謙一
株紀の国屋	佐孝 宗則
イー・ソード	平子 誠之
旬聚原金庫製作所	栗原 春吉
旬濃州堂	五十嵐啓司
古美術刀剣山城屋	嶋田 伸夫
つるぎの屋	眞賀 吉也
飯田高遠堂	飯田 慶雄
刀剣高吉	高島 大輔
日本刀旗合	旗谷 大輔
服部美術店	服部 暁治
刀剣ギャラー・樹林	森野 幸男
大宮清水商会	清水 敏行
古美術成蹊堂	松川浩一郎
株永栄堂	木村由利子
大阪刀剣吉井	吉井 唯夫
株むさし屋	猿田 慎男
大和美術刀剣	大西 康一

筑前刀剣堂	黒川 宏明
株和敬堂	土肥 豊久
儀平屋	今津 敦生
株杉江美術店	杉江 雄治
刀剣佐藤倉敷刀剣美術館	佐藤 均
新堀美術刀剣	新堀 孝道
刀友会	山本 一郎
恵那秋水会	松原 正勝
川越優古堂	三浦 優子
株日本刀剣	伊波 賢一
刀剣古美術京都むらかみ	村上 昌弘
株舟山堂	稲留 修一
真玄堂	高橋 歳夫
秀美堂	小島 昇
玉山名史刀	玉山 真敏

「刀剣評価鑑定士」公開模擬試験の実施について

来る十二月十七日、組合交換会の終了後、第三回「刀剣評価鑑定士」公開模擬試験を実施します。本試験を前に今回が最後の模擬試験となりますので、奮ってご参加ください。

申し込み・問い合わせは組合事務局まで。

活動抄録

去る二月十七日の理事会において、公益財団法人日本美術刀剣保存協会の鑑定書について発行の短縮化を要望すること決議されたため、三月二十二日、同協会の酒井忠久会長を清水理事長が訪問しました。酒井会長からは「皆さんの期待に応えられるよう鋭意努力していきたい」との回答を頂きました。その後、三月保存・特別保存審査(刀剣)から運用を開始し、鑑定証書の一部印刷化により合格証書の作成・発送までの期間を短縮化する旨が「刀剣美術」七月号に発表されました。

六月二十一日、警察庁の生活安全局生活安全企画課を清水理事長・服部副理事長・嶋田専務理事が訪問、大田副理事長の第三十一期総会の議案書・決算書提出してきました。その際、古物営業法の改正や規制緩和の進捗状況などを懇切丁寧に説明いただきました。

六月二十一日、清水理事長・服部副理事長・嶋田専務理事が刀剣登録事務を所管する東京都教育庁地域支援部(文化財保護担当)の石黒啓一課長代理、新井剛担当を訪問しました。当組合では「刀剣界」の毎号で登録証に関する諸問題を取り上げているが、これらについても事例を刀剣登録業務に少しも役立ててほしいと要望してきました。

出店者事前説明会は、本番でのトラブルを回避するために、一致して調整を図ろうと平成二十八年、当時の深海信彦理事長の発案で始まり、七月十七日に出店者事前説明会を開催しました。

今年で三十一回目となる大刀剣市は、今では世界一の刀剣イベントと言われるまでに成長していきます。それは、歴代の諸先輩が、日本刀文化の発展と刀剣商の地位向上を目指し一丸となって活動してきた苦勞の賜物であります。

出店者事前説明会は、本番でのトラブルを回避するために、一致して調整を図ろうと平成二十八年、当時の深海信彦理事長の発案で始まり、七月十七日に出店者事前説明会を開催しました。

今年で三十一回目となる大刀剣市は、今では世界一の刀剣イベントと言われるまでに成長していきます。それは、歴代の諸先輩が、日本刀文化の発展と刀剣商の地位向上を目指し一丸となって活動してきた苦勞の賜物であります。



事前説明会に参集した出店者の皆さん

「全刀商の活動」「刀剣評価鑑定士」実行委員会 資格認定試験の実施に向けて

受験などというものは、長いこと縁がありませんでしたが、最近、運転免許の高齢者講習を受講してきました。

正確には実技試験という呼称ではなく、運転能力を観察するだけらしいですが、当方にとっては試験そのもの。自分よりはるかに年若い教官が同乗し、自動車教習所(昭和世代はこう言いますが、現在はドライビング・スクールと呼ぶらしい)の懐かしいあの箱庭のようなコースを、生徒?三人で交代で走行します。

最初に運転したおぼさんは、普段乗り慣れている車ではないので、ブレーキングがぎくしゃくし、後席の私は徐々に車酔いしそうでした。その方、S字クランクはスムーズにいったのですが、車庫入れでもたつて何度か切り返し、とうとうイラッとした感じでダッシュボードを指差し、「バックビューモニターないんですね」。教官も負けじと、「それは、標準装備ではないでしょう!」。

後席の私が、そのやりとりを見ていると、二ヤニヤしていたのは想像つくでしょう。そして、前の二人の様子を十分に見ての私の番でしたが、隣に教官を乗せての運転は、緊張の連続でした。教官殿よりこちらの方が運転キャリアだけはあんなにだけどな。

後日、友人から聞いた話では、実技の走行で脱輪(昭和世代はこう言いますが、現在はコースアウトと呼ぶらしい)してしまっただけで、免許更新は問題なかったそう。今の教習所はショッピングモールの一部のように洗練されていますが、若者が団塊世代、高齢者ばかりで、三十五十歳代がほとんどいない異様な世界でした。

話が本題から脱輪してしまいましたが、来る「刀剣評価鑑定士」資格認定試験に向けて、さらなる知恵を出し合い、難事業を成就させましょう。



かつて靖国神社境内での靖国刀製作に使用されていた金敷(金床)の話題を前号で報じたが、7月13日、その奉納式が靖国神社で執行された。73年ぶりの里帰り、当社で奉納録録に使用される可能性もある。(撮影/トム岸田)

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

ジョーちゃんの
健脚商売 20



富士山一周
のち空振り
編

今日の俺の行き先よりもまず、今、俺の走っている場所をお知らせすると、青木ヶ原樹海。別にこの世をはかなんでここに来たわけではない。

樹海を切り裂く鳴沢富士宮線という道路で速度を上げていく。一年に一度の富士山一周のサイクリングに仲間と来た後に、この道の先、人穴地区で作刀に励む内田義基刀匠を訪ねる予定だ。

この富士山の周りに居を構える自転車競技関係者も多い。ツール・ド・フランスを初めて走った日本人、今中大介氏は引退後、甲府で会社を設立。同じくプロロードレース選手として活躍した山本雅道氏は奥様の元バレーボール選手、益子直美さんと河口湖に住む。われわれアマチュアの星、常にヒルクライムで上位に入る写真家の阿部ちひろ氏はこの鳴沢とか。辻堂編で語ったリシャル・ピラント選手がモンヴァントゥーを制したときの車両を所有している。

また、自動車雑誌で知られた氏の華麗な仕事だが、地元を写した写真集「アオキガハラ」は自然の中で孤独な死を選んだ人々と向き



かつて競技者だった内田義基さん(左)

近くまで来て、ナビに出ない氏の鍛錬場を携帯で見つけようとして充電状態が風前の灯なのを知る。そういえば今日になり、頻繁だった氏から一通のメールもないことが気になる。自分で見つけるしかなくなった氏の職場は、林道という林道をすべて入っても見つからない。河岸を変えるようにしてずっと先で「富士日本刀鍛錬所」の小さな立札を見つけホッとしました。も束の間、ロードレース自転車でもなくて正解、オフロードがかなり続く。何としてでもここまで来たらと、小径をウターン。やっと見つかると、不吉な予感の中、不在だ！

俺も悪いのだ。三時半に着く予定を二時間遅延した。かつて実業団登録選手を含み、レース巧者、健脚だった仲間が全員の五十代と六十代、若かったころと同じ速度で富士山を周回できると思うのは大間違い。

組合の名刺を鍛錬場の扉にはさんでいる時だった。ガサツ、ゴソツと敷から音がする。鳥たちのくちばしからの落とし物だろうか、それも小動物？ 陽は林の中に落ち夕闇を待つばかりだ。こんな時に思い出したくない阿部ちひろ氏の「アオキガハラ」の写真を思い出す。

来るとき、道路横の木の幹に巻かれた赤いビニール紐を見たが、何の目印だろうか。

実話ホラー集で読んだ話はどうだ。不況にあえぐタクシー運転手が上客を拾う。夜の都内から鳴沢まで乗せた美しい女性、樹海の中で降車する意味に気づかなかったが、やがて身の回りに恐ろしい出来事が起こり始める……。

ふるさと自慢 第23回

● 埼玉県本庄市児玉町

児玉党のルーツは今……

木村 義治

わがふるさと児玉町は武蔵国の最北端に当たる。平安時代末期から鎌倉時代にかけての武蔵国一帯には武蔵七党と呼ばれる武士団が跋扈していたが、その中で最も勢力を誇ったのが児玉地域を本拠とする児玉党であった。

児玉党は源平合戦で源氏につき、一ノ谷の戦いや壇ノ浦の合戦、ま

た奥州藤原氏討伐などに武功を立て、さらに蒙古襲来に備えて鎌倉幕府の命により安芸国や肥後国にまで及び、土着していく。

児玉党の一族の多くはこのようにして関西や東北の新天地へ移住していったもので、日本各地の児玉姓は、もともと児玉党の子孫であると聞いている。



今は桜の名所となっている稚岡城跡

鎌倉幕府の滅亡、そして南北朝の動乱の中で、児玉党一族は時代の表舞台から去り、闇の中へと消えていった。

戦国時代、この一帯を支配していた山内上杉が児玉町八幡山に稚岡城を築いて拠点としたが、その後、北条の侵攻、そして秀吉軍の前田利家・上杉景勝四万の兵に攻められ、稚岡城は落城した。

わが児玉町は元は児玉郡児玉町であったが、平成十八年に本庄市と合併し、本庄市児玉町となった。



刀剣・小道具・甲冑武具

目白 **飯田高遠堂**

代表取締役 飯田 慶雄

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615

<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本

松本 富夫 義行

〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950

www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑

日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.

(株) 日本刀剣

伊波賢一 Ken-ichi Inami

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座日本刀ミュージアム

泰文堂

〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16
岩月ビル2階

代表 川島 貴敏

TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367

<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉

古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!

連絡先 **090-8845-2222**

代表者 高島 吉童

東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116

www.premi.co.jp

たらと、小径をウターン。やっと見つかると、不吉な予感の中、不在だ！

俺も悪いのだ。三時半に着く予定を二時間遅延した。かつて実業団登録選手を含み、レース巧者、健脚だった仲間が全員の五十代と六十代、若かったころと同じ速度で富士山を周回できると思うのは大間違い。

組合の名刺を鍛錬場の扉にはさんでいる時だった。ガサツ、ゴソツと敷から音がする。鳥たちのくちばしからの落とし物だろうか、それも小動物？ 陽は林の中に落ち夕闇を待つばかりだ。こんな時に思い出したくない阿部ちひろ氏の「アオキガハラ」の写真を思い出す。

来るとき、道路横の木の幹に巻かれた赤いビニール紐を見たが、何の目印だろうか。

実話ホラー集で読んだ話はどうだ。不況にあえぐタクシー運転手が上客を拾う。夜の都内から鳴沢まで乗せた美しい女性、樹海の中で降車する意味に気づかなかったが、やがて身の回りに恐ろしい出来事が起こり始める……。



前号で紹介した(公財)日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長)の2018年度「現代刀職展」は刀剣博物館で開催中だが(詳細は「催事情報」)、開会に先立って7月13日、表彰式が挙行された。写真は各部門の特賞受賞者の皆さん。(撮影/トム岸田)

私が出会った珍品・逸品

柏樹に蟬図小柄

銘如柳軒政長(花押) 長さ九・九cm 幅一・五cm

瀬下 明

作者の菊池政長は水戸に生まれ、江戸にて金工修業、後に下野国・田沼一柳塚稲荷附近に住す。刀剣の拵・刀装具を製作。如柳軒と号した。江戸金工の名手・菊池序克は有縁の者である。

画題の蟬は、幼虫が木の根から栄養を吸収して成長するが、その地中生活は二、十五年という。その間に三、四回脱皮する。気温の上昇した夏の夜に這い出てきて孵化し、朝までに羽を乾かし、飛び立つていく。鳴くのは二、三日後から。かつては地上に出て一週間のはかない命と言われていたが、今では地上生活一カ月が定説であるという。



明珍作海老自在置物

土肥豊入

明珍は甲冑師の一族で、中でも室町末期の信家は日本最高の甲冑師と目されている。主に関東で活躍したが、江戸時代以降は全国に分布し、甲冑はもちろんのこと、鐔や馬具なども製作した。

江戸も後期になると太平の世の中となり、先細る甲冑の需要に対応して、火箸や風鈴などを製作した。自在の置物もその一つで、蛇・龍・虫などさまざまな自在が作られている。特に明治時代以降は輸出用に、より写実的で精巧な作品が作られた。

この海老の自在は明治時代に製作されたもので、胴体・髭・足などが自在に動き、鉄味も良く、在銘の珍品である。今にも動き出しそうなその出来はさすが明珍の一言である。

自在の細かい仕事は、国内のみならず海外でも評価される、日本の職人芸と言えるだろう。

特別寄稿

特別展「筑前左文字の名刀」に寄せて

ふくやま美術館学芸員 高橋 哲也

九州北部に位置する筑前国(現在の福岡県北西部)は、古代には外交・防衛ならびに九州全域の統括を担う行政機関として大宰府が設置され、二度にわたる蒙古襲来を経験した中世には、鎮西探題や九州探題がこの地に置かれまし

仁三年(一二九五)・同五年紀の太刀が遺っており、安芸国でも作刀したことが知られる入西も存在します。彼らの作刀の多くは、板目が流れてかな色が黒みを帯び、あるいは白けた地鉄に匂口のうるんだ直刃調の刃文を焼くという

その門下からは安吉、行弘、吉貞らに代表される優れた弟子を輩出して師風を継承し、南北朝時代に筑前鍛冶は大いに隆盛しました。門人たちが師と同様に太刀の作例はわずかで、現存する作品のほとんどが短刀ですが、その中には左文字を彷彿とさせる観応元年(一二三〇)紀の行弘の短刀(国宝・土浦市博物館蔵)をはじめ

日本刀剣史における重要な作品も少なくありません。本展覧会は、ふくやま美術館と刀剣博物館の共同企画により、左文字の最高傑作である国宝《大岡左文字》と《江雪左文字》(小松コレクション)を筆頭とする左文字とその一門の作品を展覧し、鎌倉時代末期から南北朝時代に黄金時代を築いた筑前鍛冶の伝統と革新の様相に迫ろうという初めての試みです。



短刀 銘左/筑州住(大岡左文字)

Table with 2 columns: No. (Number) and 作品名 (Work Name). It lists various Japanese swords and their details, including names like '銘左', '銘右', '銘吉', etc.

公益財団法人日本刀文化振興協会

「刀職者実技研修会」を開催

公益財団法人日本刀文化振興協会(本阿彌光洲理事長)では第十一回「刀職者実技研修会」を、長野県・坂城町鉄の展示館において八月二十四〜二十六日に開催しました。経済産業省・文化庁の後援を頂いている第九回「新作日本刀・研磨・外装・刀職技術者展覧会」に合わせ、展示会最後の大きなイベントとして開催され、遠方からも多くのご来館がありました。

また各部門の専門家が揃っていることから会期中、日本刀に関する相談が連日ありました。今後は、刀職入門希望者の体験も場としても活用してまいりたいと思っています。なお、恒例の「小刀造り体験」イベントは、応募者多数で抽選となりましたが、二百コースで二回実施し、合わせて二十名の方に参加していただきました。

白銀・鞘部門に続き、今年は研磨部門に参加しました。今回も丁寧に詳しく教えていただき、おかげさまで作品が完成しました！私にとって謎多き研磨でしたが、講師の方々とお話できたこと、講師の指導の下、自ら工程を追って研磨したことで、疑問が少し解きました。貴重な経験でした。この研修会で、焼き入れから一通り参加させていただき、それまでとは違った角度から刀剣の鑑賞をするようになり、私自身成長したと思います。今まで教えていただいた講師の先生方、一緒に研修した皆さま、お世話になりました。本当にありがとうございました。

「刀に携わることが好きで好きでたまらない」と笑顔で言われる受講生の方々と話げができたこと、その方々が熱心に教わっている姿を見て初心を思い出しました。今年度は体調を崩していましたが、早く回復して来年は、皆さんと同じ気持ちで研修に参加したいと思えます。(平田 表)

「刀に携わることが好きで好きでたまらない」と笑顔で言われる受講生の方々と話げができたこと、その方々が熱心に教わっている姿を見て初心を思い出しました。今年度は体調を崩していましたが、早く回復して来年は、皆さんと同じ気持ちで研修に参加したいと思えます。(平田 表)

(黒田 勉)



今回の研修生の皆さんと講師陣

ブック・レビュー BOOK REVIEW

江川太郎左衛門の魅力を描く

『英龍伝』 佐々木謙著 毎日新聞出版 定価(本体1800円十税)

直木賞作家・佐々木謙氏の小説『英龍伝』は、豆州華山の世襲代官・江川太郎左衛門英龍の一代記である。

今や華山の反射炉は世界遺産となつて、多くの人が訪れる観光の名所である。江川塾が重要文化財指定の江川邸内に再現されている。

ここで佐久間象山・黒田清隆・井上馨・大鳥圭介ら、諸藩の若者が西洋砲術・兵法を学んだ。すべては欧米列強の脅威からわが国を守るために。英龍は若者たちに、講義と実技講習のかたわら、野山での足腰の鍛錬と実戦的な感覚の養成を目的に、盛んに狩猟を行つた。薫陶を受けた若者たちは、おのおの出身母体に帰参し、軍事司令官として活躍。気骨の人、江川太郎左衛門の魅力ある人物像が見事に描かれている。

小説の如くに、われわれのよく知る刀工美濃兵衛が登場する。大慶直胤である。筆者は以前、英龍と直胤の交流についての論考を発表したことがある(『刀剣美術』七〇七・七〇八号)。故に興味が湧く。

作中、こんな場面があった。英龍「華山代官所の鍛冶場を覚えていますか」

美濃兵衛「もちろんだ。あんたに刀を打たせてやったな」

天保七年(一八三六)に、鉄のことをもっと知りたい英龍が、美濃兵衛(佐々木氏は、なぜか一貫

して美濃兵衛で通し、直胤とは書かない)宅を訪れて、勝手方手代として召し抱えたいと伝え、一晩考えて美濃兵衛は英龍の申し出を受けるといふ場面である。

面白いが、ちょっと引っかかる。英龍は文政十年(一八二七)三月十一日、荏司美濃兵衛直胤に正式入門してあり、以来、身分をわきまえた師弟関係が続く。「あんたに刀を打たせてやったな」といふ会話はあり得ない。そもそも、江川家に仕官したのは、直胤ではなく、直胤の門人胤長である。直胤は秋元藩のお抱え刀工だから、江川家に仕え、江戸を離れる、という展開も考えられない。

もっとも著者は刀の専門家ではないし、ましてや、この小説の初出は『日経マスターズ』二〇〇三年二月号から〇四年二月号である。情報は限られていたはずである。

当時、筆者は、天保二年に直胤が華山の代官所を訪れ、作刀している事実、そして両者に師弟関係があるらしいということに着目し、研究を始めていた。小説は、その少し後に発表されたものである。

折しも江川文庫では膨大な資料を整理して、史料の閲覧は許されず、まさに途方に暮れていた。頼みとなったのは『江川垣庵全集』の文献であったが、原史料の確認をせずに、空想で論考を発表してしまつては一生悔いを残すと、半ば研究を諦めていたところだ。佐々木謙氏が何を参考文献としたのかは不明であるが、史料的には限られていたであろう。そんな中で、よくぞ書いたとも言える。ただ、佐々木氏が二〇一八年に単行本とする



英龍伝 佐々木謙 開国か。戦争か。幕臣。日本を救った。早くから「黒船来航」を予見し、海防強化を断念しなかった行政官・江川太郎左衛門英龍の不屈の生涯。『くろふね』(武揚伝)に連なる幕末3部作、源流の完結! 毎日新聞出版

に当たり、拙稿に触れる機会がもしもあれば……。事実関係も正され、構想自体を再考する必要に迫られたであろう。直胤についても、ただの刀鍛冶ではなく、英龍に重大な影響を及ぼし、人として尊敬し合う間柄の人物として描き直すこととなり、物語にも一層の深みと厚みが出たのではないかと。

拙稿で初めて明らかにしたことだが、直胤は砲術家・高島秋帆の江戸近郊の宿舎を、英龍の名代として訪れ、南蛮鉄や鉄製大砲の製造について質問し、そしてその顛末を記した英龍宛の手紙で、「あなたがやろうとしていることは日本のためになることです」と述べているのである。つまり、直胤は英龍の事業に全面的に協力したばかりではなく、それがどういう意義を持つか、自覚していたのだ。

そこから著者が小説家ならではの感性で、話を膨らませていったら……きつとも面白くドラマが描けたことであろう。そう思うと、ちよつと、いや、かなりの残念である。昨今の大河ドラマは、戦国・幕末、戦国・幕末……その繰り返しが登場する。しかも、有名な人物しか登場しない。同じ幕末を取り上げるとしても、江川太郎左衛門英龍を主人公にしたら、きつと面白いドラマになるのではないかと。そこに直胤や、天才で長州藩と縁のある清隆、山内容堂をして今正宗と言わしめた左行秀、宇和島藩主・伊達宗城や古河藩の土井侯と縁のある固山宗次……そんな綺羅星のような刀工が登場したら、きつと忘れがたい大河ドラマになるであろう。そんなことを、時々、妄想している。

●佐々木謙(ささき・けん) 昭和二十五年、北海道生まれ。平成二十二年「廃墟に匂う」で直木賞受賞。ほかに『くろふね』『武揚伝』など多数。(小島つとむ)

乱世に生きた武將たちの浮き沈み

『敗れども負けず』 武内涼著 新潮社 一七二八円(税込)

『甲陽軍艦』は、国を滅ぼす大將に四つの典型があると指摘する。

- 第一番、馬鹿な大將
第二番、利口すぎる大將
第三番、臆病な大將
第四番、強すぎる大將

同書は馬鹿な大將として今川義元を、利口すぎる大將として武田義信(信玄の嫡男だったが自刃)を、臆病な大將として山内上杉憲政を、強すぎる大將として武田勝頼を取り上げる。

関東管領・山内上杉憲政について、当時、上州に生きた僧は「上杉殿乱行無道」と評し、『甲陽軍艦』は「義理をばわきになし外間を本にし給へば一義理をおろそかに、外側の評判を最も大切にす」と筆誅を加え、『北越軍談』は「生徳昏愚にして武將の器なし」と、これまた容赦ない。

以上は、第一話「管領の馬」の書き出しです。ちよつと読んでみようかな、と思いませんか。『敗れども負けず』は五話からなる短編集です。室町時代三話、鎌倉時代二話、構成されています。室町時代は刀剣商のわれわれにとって応永備前から末相州、未備前といった古刀最末期に相当し、縁が深いはずですが、肝心なその歴史的背景についてはよくわからないのではないのでしょうか。少なくとも小生にとって、室町時代というのはそんな時代なのですが、この本を読むことによって端緒を

開くことができた気になりました。第一話は天文二十一年(一五五二)に山内上杉憲政が北条氏康に攻め込まれ落城、その後越後に逃げ、長尾景虎に関東管領職と上杉姓を譲ったこと。その結果、上杉謙信が関東遠征をし、岩槻の太田三楽斎、安房の里見、常陸の佐竹、下野の宇都宮や那須一族を巻き込んで結成された「十万人の反北条連合軍」による小田原城包囲など、関東に引き起こされるさまざまな激動のきっかけとなる。

第三話「沖田殿」は天正十三年(一五八五)の話。当時の九州では、肥前の龍造寺、薩摩の島津、豊後の大友の三強が対峙していた。かつて九州で最強の大名は大友宗麟であったが、日向耳川の戦いで島津に大敗し、宗麟自身の失政もあって弱体化した。その隙を縫い、新興勢力龍造寺と、古より南鎮西に押し込められてきた島津が急拡大した。龍造寺としては島津と結び、大友を滅ぼしたかった。ところが用心深い島津義久は、落ち目の大友より、上り龍の勢いを見せる龍造寺を警戒。同盟の申し出を一蹴、龍造寺対島津の戦が沖田殿で始まった。

「慶」とは、田と田の間の細道を意味する。沖田殿は悪水が抜けない泥田であり、龍造寺家はここで作戦ミスから大殿・龍造寺隆信を討ち取られ、島津家に降ることになる。だが秀吉が九州に出陣すると、隆信の嫡男・龍造寺政家ではなく、鍋島信生の判断で島津家から抜け、豊臣方に加わる。

豊臣から徳川へ天下の覇権が移る中、またも信生の思案で生き残った。鍋島信生改め鍋島直茂が佐賀藩の藩祖となり、主筋に当たる龍造寺家は没落してしまふ。

第四話「春王と安王」は永享十一年(一四三九)の話である。鎌倉公方・足利持氏は、京都で恐怖政治をしいていた六代将軍・足利義政に謀反。箱根・鎌倉で激戦し、嫡男とともに討たれた。世に言う「永享の乱」である。

翌年、日光山に潜伏していた持氏の遺児、十三歳の春王丸、十一歳の安王丸兄弟は、森や湿原などの人なき地をかくぐり、常陸へ入った。同地で打倒京都将軍方の機を飛ばし、挙兵した。遭臣たちを掻き集めながら下総入りした兄弟は、湿地に囲まれた無双の要害、結城城に立て籠もっている。

これに対し、室町幕府を束ねる將軍義教は、関東甲信越・駿河・美濃・奥羽の大名に反乱軍を討つように命じている。総大將は関東管領・上杉清方。軍監には、前関東管領・上杉憲実が上杉入道としている。兄弟の亡父、持氏の重臣であり、義教の敵命で心ならずも持氏を討った武將である。

この結城攻めは、初めは龍城方が優勢であったが、老練な上杉入道の作戦で、戦いが長期戦になると、龍城方には兵糧の限界という敵然たる先が見えてしまふ。改元した嘉吉元年(一四四一)四月十五日、挙兵から一年以上経過した日に結城城は落城し、春王丸と安王丸は幕府軍にとらわれる。身柄は都に護送されることになったが、途中、將軍からの命令変更により美濃国垂井の宿で殺されてしまふ。同年五月十六日。



敗れども負けず 武内涼 天下の覇権が移る中、またも信生の思案で生き残った。鍋島信生改め鍋島直茂が佐賀藩の藩祖となり、主筋に当たる龍造寺家は没落してしまふ。

六月二十四日、足利義教は家臣赤松満祐の屋敷に招かれ、春王・安王対峙の祝宴中、斬り殺されてしまふ。第二話は、源氏に滅ぼされる越後平氏の女性の話。第五話は北条政子の話だが、いずれも「敗れども負けず」。勝負は一往たり来たりというところで、ぜひ読んでみてくださう。(持田具宏)

日本刀 販売 買取 委託 (株) e-sword (イーソード) 平子誠之 〒350-1115 埼玉県川越市野田町 1-4-19 1F TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407 http://www.e-sword.jp 日本刀 イーソード 検索 mail:info@e-sword.jp

滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1 TEL 0749-1421-2736 携帯 090-131621-7664 http://www.goushuyahonohou.com

日本刀の 名品・名刀を販売 店主 小暮 昇一 〒153-10051 東京都目黒区上目黒四-1-10 TEL 03-3710-0676 FAX 03-3710-9611

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定 (株) 城南堂古美術店 代表 田中 勝憲 〒130-0012 墨田区大平四-1-19 TEL 03-3621-1111 FAX 03-3621-1111 メール tobak@pb8.so-net.ne.jp

アオバ企画(株) 高橋 一

7月14~16日、東京・九段の一口坂ギャラリーで「蒼雲会作品展」が開催された。写真左から松葉國正・坪内祐忠・三上貞直・久保善博・尾川兼國の各刀匠(撮影/トム岸田)

催事情報

高岡市福岡歴史民俗資料館

〒939-0143 富山県高岡市福岡町下向田字畦ケ谷内15 ☎0766-64-5602
http://www.city.takaoka.toyama.jp/f-kyoiku/kanko/bunka/shisetsu/rekishi.html

特別展「越中ふくおかの名刀～宇多派の真髓に迫る～」

越中福岡はかつて、南北朝期に大和の地から移り住んだといわれる刀匠一派「宇多派」が居住した地域であり、以後、江戸期まで名を継ぎながら多くの刀工が活躍しました。宇多派の刀剣は質実剛健の風合いが強く、近年では実用刀として高い評価を受けています。大名や武将など特定層にこだわらず、商人などの庶民へも身分を問わずに作刀したことから、その作域・作風は幅広いものがあります。また大和鍛冶の作刀技術をベースとしながらも多様な刃文を鑑賞できることが、宇多派の大きな魅力の一つとなっています。



今回の特別展では、その宇多派の持つ多彩な作域を感じ取ることができる作品、県指定文化財2振を含む名刀20点余を展示します。古より郷里の人々が代々大切に保管してきた秘蔵の宇多刀を、その産地である福岡で鑑賞いただけることは主催者として至上の喜びです。はるか昔、宇多の刀匠たちがこの地で打ち込めた波動、その神髓を感じ取っていただければ幸いです。

会期：10月13日(土)～12月2日(日) 月曜休館

桑名市博物館

〒511-0039 三重県桑名市京町37-1 ☎0594-21-3171
http://www.city.kuwana.lg.jp/index.cfm/24,0,235,414.html

村正Ⅱ 一村正と五箇伝

「村正」をはじめとした桑名ゆかりの刀剣を紹介する展覧会を開催します。

主な展示作品：

重要美術品 刀 銘 村正 妙法蓮華経／永正十癸酉十月十三日
刀 銘 正真／(金象嵌銘)猪切(三河武士のやかた家康館蔵)

東建コーポレーション(株)の協力により、「太刀 銘 包永(金象嵌)本多平八郎忠為所持之」など五箇伝を中心に17振が出品されます。

会期：10月6日(土)～11月25日(日) 月曜休館



島田美術館

〒860-0073 熊本市西区島崎4-5-28 ☎096-352-4597
http://www.shimada-museum.net/index.php

幕末維新の刀剣と書

日本の武の象徴は、言うまでもなく刀剣。日本刀の優美な姿形と鋭い切れ味は、世界の武器の中でも比類がありません。泰平の世が続いた江戸時代中期以降、実戦で刀を使う機会が減り、象徴的な意味合いが増していたところに訪れた黒船来航(1853年)に始まる激動の幕末は、刀剣本来の武器としての機能性、つまり切れ味と強靱さといった実用性を再浮上させました。刀剣界は幕末から維新にかけて大いに活気づきますが、廃刀令(1876年)が発令され、日本刀の歴史は一区切りを見ることとなります。



また、よく知られるように、この時期は、社会的な変動を背景にして、わが国の書風がきわめて多様に展開し、変転した時代です。すなわち、江戸期を通じての唐様の流行、さらに伝統的な書風への復古の気運、加えて近代書風への模索と、実に魅力に富んだ展開と混乱を見せています。

今回の展覧会は、この時期に活躍し、さまざまな運命をたどった志士、思想家、学者などの書と、幕末を中心とした新々刀に、時代の様相をうかがおうというものです。

会期：7月11日(水)～12月10日(月) 火曜休館

京都国立博物館

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527 ☎075-525-2473 (テレホンサービス)
https://www.kyohaku.go.jp/jp/

特別展「京(みやこ)のかたな～匠のわざと雅のこころ～」

王城の地・京都では、平安時代から現代に至るまで、多くの刀工が工房を構え、あまたの名刀を生み出してきました。これら京都で製作された刀剣は、常に日本刀最上位の格式を誇り、公家、武家を問わず珍重され、とりわけ江戸時代以降は武家の表道具として、大名間の贈答品の代表として取り扱われました。



本展では、現存する京都＝山城系鍛冶の作品のうち、国宝指定作品17件と、著名刀工の代表作を中心に展示し、平安時代から平成に至る山城鍛冶の技術系譜と、刀剣文化に与えた影響を探ります。また、武家文化だけでなく、公家・町衆を含めた京文化の中で、刀工たちが果たした役割に迫ります。

会期：9月29日(土)～11月25日(日) 月曜休館

致道博物館

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18 ☎0235-22-1199
https://www.chido.jp/

秋の特別展「刀剣と甲冑～重要文化財 色々威胴丸修復記念～」

出羽庄内藩主酒井氏に伝来する優品の甲冑で、今春修復を終えたばかりの「重要文化財 色々威胴丸」(当館所蔵)をお披露目します。これを記念し、庄内に伝わる室町時代後期から江戸時代中期の胴丸や当世具足

などの甲冑をはじめ、平安時代後期から江戸時代の太刀・打刀・短刀・薙刀・槍などの刀剣および装具を一室に展示します。

会期：9月8日(土)～10月21日(日)

備前長船刀剣博物館

〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966 ☎0869-66-7767
http://www.city.setouchi.lg.jp/token/index.html

特別展「こんぴらさんの名刀展」

金刀比羅宮は、昔から朝廷や幕府、諸大名をはじめ、一般庶民の篤い崇敬を受け、貴重な宝物類が数多く奉納されています。刀剣においても、古くは平安時代末期より現代に至るまで、精魂込めて鍛え上げた逸品が

数多く現存しています。今回は、その中から備前物を中心に41口を展示します。

会期：9月7日(金)～11月25日(日) 月曜休館(祝日の場合は翌日)

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

〒910-2152 福井県福井市安波賀町4-10 ☎0776-41-2301
http://asakura-museum.pref.fukui.lg.jp/010_about/

特別公開展「戦国の輝き～朝倉氏ゆかりの名刀降臨～」

「越前一乗谷住兼則」の銘を持つ一乗谷で作られた刀剣、朝倉氏ゆかりの名刀、一乗谷に刀鍛冶がいたことを

示す出土品を展示するほか、研磨修復した館蔵の赤羽刀を初公開します。

会期：9月15日(土)～11月11日(日)

塚本美術館

〒285-0024 千葉県佐倉市裏新町1-4 ☎043-486-7097
http://www.tsukamoto-sogyo.co.jp/index_tsukamoto.html

鎌倉・南北朝期の名刀

現在、国宝や重文・重美に指定・認定されている刀剣は、そのほとんどが鎌倉・南北朝期のもので占められています。また、それらは全国の五つの地域(京・奈良・岡山・神奈川・岐阜)の刀剣が中心となっています。来国行・行光・貞宗・一文字などが主な展示品となっていますが、今回

特別に当館の至宝ともいべき紀州徳川家伝来の「江義弘」を開館以来初めて展示します。国が江と認め指定・認定しているわずか12本の作品のうちの1本です。人気の高い加州清光と同田貞正国は今回も引き続き展示します。

会期：7月3日(火)～9月28日(金)

刀剣博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網1-12-9 ☎03-6284-1000 https://www.touken.or.jp/museum/

現代刀職展 ―今に伝わるいにしへの技―

公益財団法人日本美術刀剣保存協会は、その使命の一つに現代刀職者の育成と技の公開をあげ、その事業として、「現代刀職展」を開催しております。この展覧会は、以前の現代刀匠を中心とした「新作名刀展」刀剣を研磨する研師および外装を制作する刀職者のための「刀剣研磨・外装技術発表会」を合同で展示し、一年の成果を競い、そして発表する場として位置づけられるものです。



「新作名刀展」および「刀剣研磨・外装技術発表会」はそれぞれ60年を超える深く長い伝統をもつ展覧会でした。この伝統と格式を礎に、新たな歴史を刻むべく、本展覧会は開催されることとなりました。本財団の創始者である佐藤寒山先生の遺訓であり、本財団の基本精神である「和」の理念によって成し遂げられた渾身の力作揃いです。本展覧会を通じて刀職者が胸に抱き日々実践している「和」の精神も感じ取っていただけることと思います。

会期：7月21日(土)～10月8日(月・祝日) 月曜休館
なお、本展は致道博物館(10月24日～11月25日)と森記念秋水美術館(11月23日～12月16日)で巡回展示されます。

東京美術倶楽部

〒105-0004 東京都港区新橋6-19-15 ☎03-3432-0191
https://www.toobi.co.jp/index_jp.html

2018東美アートフェア

今年の2018東美アートフェアは17回目の開催となります。美術界の中核的存在である東京美術商協同組合の組合員102店が、1年以上の歳月をかけて皆さまに気にかけていただける優品・珍品を探し求め、そして、その作品にふさわしい空間を創るべくブースの造作にも時間と知恵を使い、準備してまいりました。多くの皆さまに古美術から現代美術まで、特別なアートに囲まれた空間をお楽しみいただきたいと、一同心から願っております。



会期：10月12日(金)・13日(土)・14日(日)